

<h1>徳島子どもと教育</h1>	<b>徳島県教職員の会</b>
	〒771-0017徳島市川内町鶴島115
	黄金ビル 徳島労連事務所内
	TEL 088-665-6644
	FAX 088-665-2117
	携帯 090-2891-5189
eメール <a href="mailto:dp12287892@pf.lolipop.jp">dp12287892@pf.lolipop.jp</a>	
2019年3月23日 No.235	

## 子どものポスターで「自衛官募集！」を呼びかける

### 自衛官募集啓発ポスタコンクール問題 (続報)

機関紙 234 号でお知らせしました「徳島県自衛官募集啓発ポスターコンクール」についての続報です。この件で、教職員の会と県退教が1月、県に要求書を提出しましたが、県は、「ご意見は十分お聞かせいただいた」と述べ、文書回答と面会を回避しようとした。こうしたなか、2月に電話で3回にわたって意見交換を行った主な内容を報告します。

## 県の回答「広報宣伝を逸脱するものではない」

- ◆ポスターコンクールは、中学・高校・大学・専門学校生等の若い人に、自衛官という仕事・職場がどういうものかを知ってもらうために始めた。
- ◆弁護士からは、「(コンクール)広報宣伝を逸脱するものとはいえない」との回答を得ている。
- ◆コンクールで知事賞になったポスターは、市町村や高校・大学などに配布している。
- ◆募集広報にかかる経費は委託事務として国から一括して出ている。徳島県は独自にポスターをつくっているが、他の都道府県がやっているか否かについては承知していない。
- ◆来年度の実施については、未定で、年度初めに決まる。公募を始めるのは、今まで、夏休み前であった。

県の回答に対し、教職員の会・県退教側は、下記のような意見を述べました。

## 会の主張「ポスターコンクールの中止を」

### 自衛官募集のためのコンクール

「自衛官募集啓発ポスターコンクール」は、その名の通り、自衛官募集に役立てることが目的のコンクールだ。そのことは、県が応募者に、「今後とも、自衛官募集事業に

ご理解、ご協力」を「お願い」(徳島県ホームページ)していることから明らかだ。

県は、「自衛隊の仕事・職場について考えてもらう」と主張するが、子どもたちの作品がポスターとして掲示された時点で、子どもたちが「自衛官募集」を呼びかける「広報宣伝」の役割をしていることになる。県知事が、子どもたちと子どもたちのポスターを、自衛官募集に利用していることになる。そのことは、2017年度知事賞のポスターに、県が「自衛官募集！」を書き加えて完成させたことから明白だ。「自衛官という仕事・職場がどういうものかを知ってもらうため」という県の主張は、事実とは全く異なる。

## 説明不能なコンクールは中止すべき

県が業者等を使ってポスターをつくることは、「(県知事が)自衛官」「募集に関する広報宣伝活動を行う」(自衛隊法施行令)ことに該当し、県の顧問弁護士の言うように「広報宣伝を逸脱するものとはいえない」だろう。

しかし、子どもの名前で、子どものポスターを利用して、子どものポスターに県が「自衛官募集」と書き加えて、「募集に関する広報宣伝活動を行う」権限は知事にはない。明白に県の広報宣伝活動を逸脱している。このようなことをやっている都道府県があるのなら教えてほしい。県の職員は、憲法9条を含む憲法に基づいて職務に励むのが本来である。国(防衛省・自衛隊)との「連携」名目で、自衛隊に言われるままになるのではなく、自らの頭で考え、県民に顔を向け、プライドを持って仕事をしてほしい。

「広報宣伝を逸脱していない」と答えるのみで、会が示した中止すべき理由3点について具体的に反論・回答ができないような異常なポスターコンクールは、中止すべきだ。



徳島県庁での展示の様子(2月)



2018年度 知事賞受賞作品

## 臨時教員の採用審査受審に「職専免」を適用

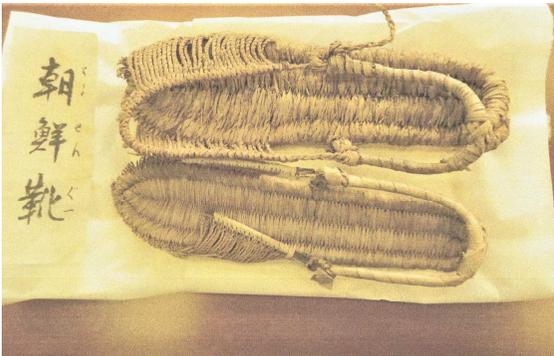
### 教職員の会・臨時教員の要求が実現！

教職員の会は県教委に対し、「採用審査を『職専免』で受けることができるように」と長年にわたって要求してきましたが、このほど、2019年度実施の教員採用審査において、「職専免」による受審が可能になりました。

教職員の会は、今回の県教委の対応を歓迎するとともに、今後、臨時教員の切実な諸要求のさらなる実現を求めています。

## 2.11集会に参加して (寄稿)

『建国記念の日』に反対し、朝鮮侵略と植民地支配を考える 2.11 集会」に参加し、大変勉強になりました。



高越釜山で働いていた朝鮮人労働者の「朝鮮靴」(吉野川市教育委員会所蔵)

ヘイトスピーチや、日本会議などによる歴史観の押しつけは目に余るものがありますが、最近では、政府の「韓国徴用工裁判」への異常な口出しに、マスコミも同調し、韓国に対して反感を持つ雰囲気が漂っているような気がしています。

歴史を遡ってみると、吉田松陰の松下村塾などで浸透した、世界の中心に日本が君臨するために中国・朝鮮を先ずは征するという思想が、明治政府の朝鮮に対する「上から目線」の外交政策へ続き、その思想が、今でも底流にあるのではないのでしょうか。それを断ち切るには、歴史をきちんと知ることだと思います。

日清・日露戦争後、朝鮮を植民地支配するようになった経過を知ると、いかに屈辱的なことを日本政府が強いたかがわかります。第二次世界大戦まで、その支配がずっと続き、戦後も「経済的、社会的、文化的向上と近代化は、日本の貢献によるもの」といった、支配を正当化する考えが日本政府にずっと引き継がれているようです。でも、そんなことは国際的には通用しないことです。戦争責任には、きちんと向き合うべきです。

私は、あらためて、歴史の真実をきちんと知り、それを広めていくことが、本当の平和外交へとつながる道だと思いました。(吉野川市 会員)

## 興味深い！ 徳島県母親大会 教育の分科会

徳島県母親大会が6月2日に開催されます(詳しくは、同封の「第59回徳島県母親大会」のチラシをご参照ください)。

教職員の会は、母親大会の実行委員会に加わり、母親大会の成功、とりわけ教育問題の分科会の成功に向けて取り組んでいます。

今年の教育問題の分科会テーマは、「子どもたちに『幸せに生きる力』を育てよう ～コスタリカから学ぶ～」です。

分科会の助言者の小池清さんは、「ひまわり学校」の運営に取り組み、また、今年になって平和憲法を生かしている国・コスタリカを訪問しています。興味深い分科会になると思われますので、分科会の紹介文を掲載しました。

ご多忙かと思いますが、ぜひ、ご参加くださいますよう、一足早くご案内いたします。



### 母親大会2019

#### 第1分科会 子どもたちに「幸せに生きる力」を育てよう！ ～コスタリカに学ぶ～

子どもたちに「幸せに生きる力」を育てるにはどうしたらよいか、コスタリカに学びます。

たくさんのニカラグア人が、移民難民として自国に入っても誰も排除せず、コスタリカ人と同様に、教育費も医療費も無料となります。子どもが一人でもいれば学校を建てます。貧しい発展途上国でありながら、なぜそんなことができるのでしょうか。それは、戦争を放棄し、軍隊をなくし、軍事費をゼロにして教育にかけたからです。

小学1年生から「人は誰も愛される権利を持っている」と学びます。だから、大人はもちろんのこと、子どもたちも気軽に違憲訴訟を起こします。この国から、教育や子育てのあり方を学び、考え合いたいと思っています。